

国指定史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」

板橋火薬製造所は、明治9年(1876)、現在の板橋区加賀地域に所在した加賀藩下屋敷の跡地に設置された官営工場です。明治政府が初めて設置した近代的な火薬製造所であり、昭和20年(1945)まで国内有数の火薬工場として稼働していました。

第二次世界大戦後、火薬製造所はその役割を終え、その跡地には研究所や学校、工場などが入居して活動することになり、現在につながる加賀地域へと姿を変えてきました。板橋区は、明治初年からの火薬製造所の歴史を、「工都」板橋における工業のさきがけとして位置付けるとともに、その遺構や建造物を近代化遺産・産業遺産として評価しています。また、製造所内に置かれていた火薬研究所による最先端の研究が、戦後日本の科学技術の発展に大きな貢献を果たしたことも重要な点です。

こうした近代的な火薬製造所と研究所の歴史的価値が認められ、平成29年10月、加賀一丁目7および8番の地域とそこに残された火薬製造所の遺構や建造物を含め、国の史跡に指定されました。本パンフレットでは、加賀藩下屋敷時代から現代に至る史跡の歴史をご紹介します。



東京第二陸軍造兵廠本部及板橋製造所構内図(部分) 昭和18年(1943)
板橋区立郷土資料館所蔵「加賀五四自治会(肥田一穂氏寄贈)文書」

国史跡陸軍板橋火薬製造所跡の歴史

加賀藩下屋敷の誕生

延宝七年
1679



拡大

下屋敷御林大綱之絵図(部分) 文政7年(1824)
金沢市立玉川図書館近世史料館所蔵



於平尾御屋敷大砲铸造之図 嘉永年間(1848~54) 個人蔵

加賀藩前田家が板橋宿平尾の地に江戸幕府から屋敷地を拝領しました。前田家はここに下屋敷をおき、最終的には21万7千坪にも及ぶ、大名屋敷の中でも最大の面積を誇りました。

幕末には、石神井川の水力を動力源として、西洋流の大砲铸造が行われました。

米穀を製粉する水車は、のちに火薬製造機械の動力源になりました。

明治39年まで使われていた
実物を使って、大正11年
(1922)に設置されました。

火薬製造所の発足

明治九年
1876

加賀藩下屋敷の跡地の一部に、国内初の官営の火薬製造所である、陸軍砲兵本廠板橋属廠が発足しました。黒色火薬の製造には、幕末に幕臣の澤太郎左衛門がベルギーから購入した圧磨機が使用されました。



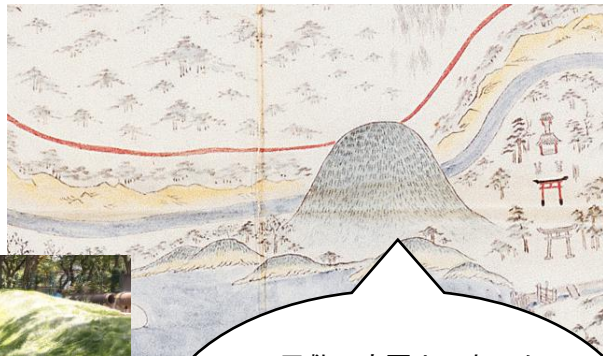
圧磨機圧輪記念碑 加賀1-10(加賀西公園)に所在

1877
明治十年

近代的な火薬の発射試験

火薬の性能を確認するため、板橋火薬製造所で電気式の「検速儀」を使った火薬の発射試験を実施しました。このとき加賀藩下屋敷時代の築山が的として転用されました。

(前掲) 下屋敷御林大綱の絵図(部分)



発射場基礎

史跡指定地内に現存しています。写真奥には、加賀公園内にある築山が見えます。



下屋敷の庭園内にあった築山は、明治時代以降は、射撃試験の的として使用されました。

1903
明治三十六年

火薬研究所の発足

板橋火薬製造所の敷地内に、陸軍火薬研究所が発足しました。この頃から日本でも新しく作られるようになった無煙火薬の安全性の向上などを研究する、日本初の近代的な国立の理工学系研究所でした。

板橋火薬製造所は、研究所に隣接した工業的実験工場となり、火薬製造の技術の先端を支える中枢的存在となりました。



陸軍造兵廠火工廠絵はがきより「火工廠板橋火薬製造所」

昭和初期 北区立中央図書館所蔵

1945
昭和二十年

火薬製造所の稼働終了

終戦により、板橋火薬製造所および火薬研究所の活動が終了し、同製造所は解散しました。使用していた機械や什器類はGHQに接收され、跡地の建物には民間の工場や学校、研究所などが入りました。そこに入った工場、学校、研究所などが五四団体自治会を結成し、のちに加賀五四自治会になりました。

1946
昭和二十一年

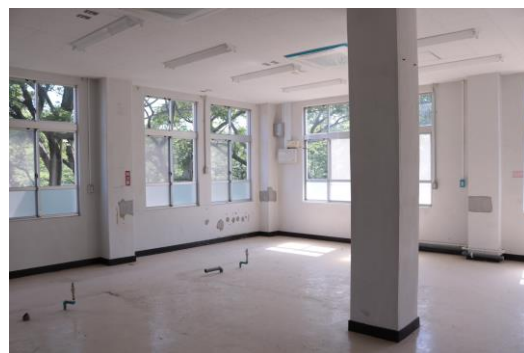
旧火薬製造所の跡地利用 —野口研究所と理化学研究所板橋分所—

活動が終わった火薬製造所の跡地のうち、現在の史跡指定地にあたる地区に、野口研究所と理化学研究所が入りました。



燃烧実験室(昭和18~20年頃築)

戦後、野口研究所が使用していました。



理化学研究所は、仁科芳雄を主任研究員とする宇宙線研究室が入居し、宇宙線の観測などの基礎研究が継続的に行われました。また板橋分所に仁科の弟子である湯川秀樹も一時、在籍していました。



物理試験室 D 棟（明治 40 年築）
戦後、理化学研究所が使用していました。



内部

内部

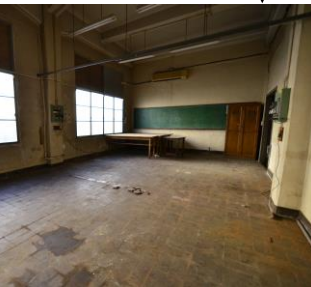
拡大



仁科研究室時代の什器
が残されています。



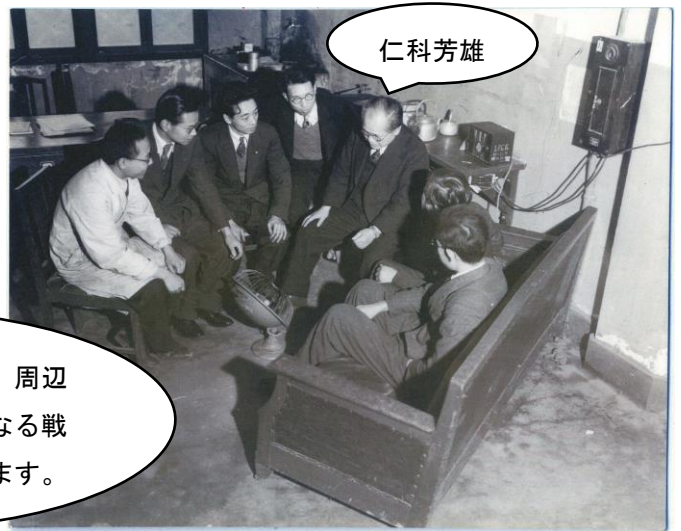
湯川秀樹



板橋分所で、湯川秀樹がくつろぐ様子。昭和 36~42 年（1961~67）頃。場所は物理試験室内の一室で、当時はミーティングルームとして使用されていました。理化学研究所広報室記念史料室所蔵。



物理試験室の外壁や窓枠、周辺の景観など、現在とは異なる戦後当時の様子がうかがえます。



仁科芳雄

昭和 21~25 年（1946~50）頃の理化学研究所板橋分所の様子。写真右手側の建物は、物理試験室。当時はまだ道路は舗装されていませんでした。理化学研究所広報室記念史料室所蔵。

昭和 21~25 年（1946~50）頃の理化学研究所板橋分所の様子。仁科芳雄を中心に、仁科研究室のメンバーが集まっています。仁科芳雄の向かって右隣は、仁科没後、宇宙線研究室を牽引することになる宮崎友喜雄。理化学研究所広報室記念史料室所蔵。

国史跡陸軍板橋火薬製造所跡の主な遺構・建造物

旧野口研究所跡



燃焼実験室



銃器庫



爆薬製造実験室



弾道管



試験室 (No.672)



試験室 (No.522)



加温貯蔵室



常温貯蔵室

旧理化学研究所板橋分所跡



爆薬理学試験室



物理試験室

加賀公園



築山



射塚

アクセス

東京都板橋区加賀 1丁目7番・8番

- ・都営三田線「板橋区役所前」駅徒歩 15分
「新板橋」駅徒歩 10分
- ・JR 埼京線「十条」駅徒歩 15分
- ・国際興業バス「東板橋体育館入口」徒歩 5分
[王 22 王子駅⇐板橋駅]

- ☆☆☆ : 史跡指定地
- ☆ : 加賀公園 (公開中)
- ☆☆ : 旧野口研究所跡 (整備のため非公開)
- ☆☆☆ : 旧理化学研究所跡 (整備のため非公開)



〈お問い合わせ先〉

板橋区教育委員会事務局生涯学習課近代化遺産利活用担当係

TEL : 03-3579-2664 FAX : 03-3579-2635

URL : <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bunka/bunkazi/1021974/1023606.html>

